

I 結果の概要

1 本年度の調査概要 及び 本県の課題

各教科区分に共通する課題

記述式の正答率が低い

平成31年度全国学力・学習状況調査

(1) 調査実施日 平成31年4月18日(木)

(2) 本県の実施状況 公立小学校670校 公立中学校328校 合計998校
(千葉県を除く。義務教育学校・特別支援学校を含む。)

(3) 調査内容
ア教科 小学校 国語、算数
中学校 国語、数学、英語(「聞くこと・読むこと・書くこと」及び「話すこと」)
イ児童生徒質問紙、学校質問紙

	前回の課題	今年度の課題	詳細
小学校国語	◆書くこと ◆短答式 ◆記述式	◆話すこと・聞くこと ◆記述式	P 12~19
小学校算数	◆量と測定 ◆図形 ◆記述式	◆数と計算 ◆短答式 ◆記述式	P 28~35
児童質問紙	◆算数への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	◆地域や社会に関わる活動の状況等	P 60
小学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆算数科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆指導改善サイクルの確立	◆全国学力・学習状況調査等の活用	P 81~82

中学校国語	◆記述式	◆書くこと ◆記述式	P 20~27
中学校数学	◆数と式 ◆図形 ◆関数 ◆資料の活用 ◆記述式	◆数と式 ◆関数 ◆資料の活用 ◆短答式 ◆記述式	P 36~43
中学校英語		◆書くこと ◆短答式 ◆記述式	P 44~52
生徒質問紙	◆数学への関心等 ◆理科への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	◆国語への関心等 ◆英語の授業における活動の状況 ◆地域や社会に関わる活動の状況等	P 54 P 58~59 P 60
中学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆数学科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆指導改善サイクルの確立	◆英語科の指導方法 ◆家庭学習 ◆全国学力・学習状況調査等の活用	P 67 P 70 P 81~82

*本冊子における千葉県（千葉市を除く）・全国の平均正答率及び平均正答数は、公立学校に在籍する児童生徒の数値である。

2 教科区分別調査結果

*数値は、千葉県（千葉市を除く）・全国ともに、公立学校の平均正答率（％）である。ただし、文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示している。右の（ ）の数値は平均正答数である。

小学校	千葉県	全国
国語（14問）	63（8.8）	63.8（8.9）
算数（14問）	65（9.2）	66.6（9.3）

中学校	千葉県	全国
国語（10問）	72（7.2）	72.8（7.3）
数学（16問）	57（9.2）	59.8（9.6）
英語（21問）	55（11.6）	56.0（11.8）
英語「話すこと」(国公私)（5問）		30.8（1.5）

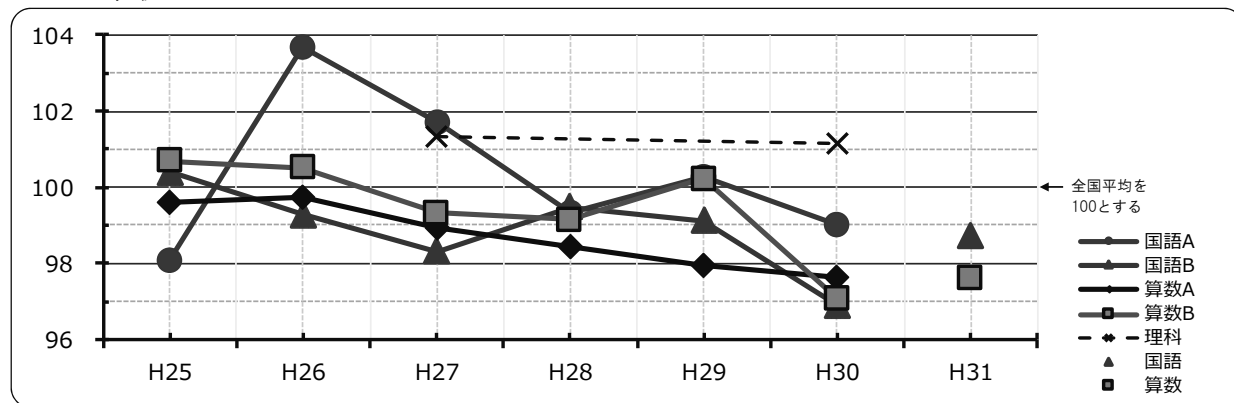
本県は、全ての教科において、平均正答率が全国に比べ低い状況である。中学校数学については、全国に比べ平均正答率が2.8ポイント低い状況である。

3 平成25年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移

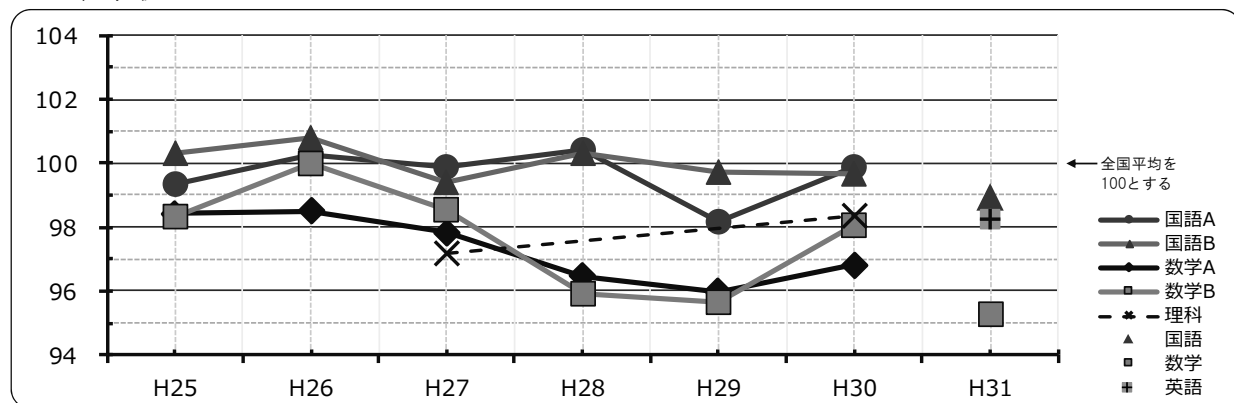
*全国（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとに記述した。

*平成31年度は、A問題とB問題を一体的に問う問題となり、A問題、B問題に分けずに実施されたため、線で結ばずに単独で表した。

< 小学校 >



< 中学校 >



※指数は、小数第1位までの平均正答率をもとに算出しているため、教科区分別調査結果を用いた値と一致しない場合がある。

4 教科に関する調査

(1) 国語

【小学校】

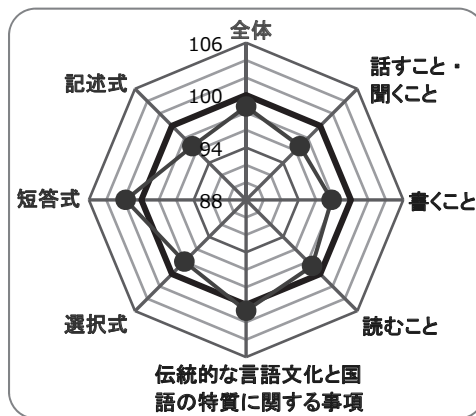
平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低い。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は昨年度より 2.8 ポイント上昇した。問題形式別では、「選択式」「記述式」が低い状況であるが、「記述式」は昨年度より 5.7 ポイント上昇した。

正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域等、問題形式の状況

平均正答率 (%)

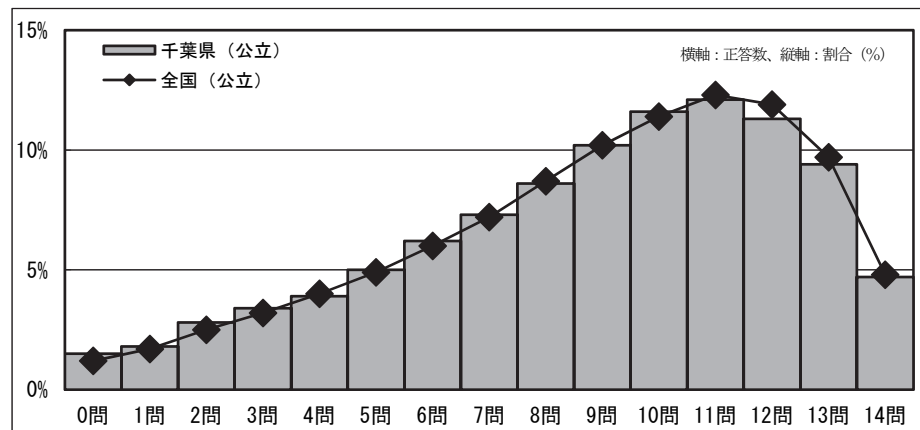
小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	63	63.8



領域等	全体	指数
話すこと・聞くこと	96.7	96.7
書くこと	97.8	97.8
読むこと	98.7	98.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	100.7	100.7
問題形式	選択式	98.0
短答式	101.8	101.8
記述式	96.7	96.7

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



*「A～D層」について
・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	8.8問 / 14問	63 %	9.0	3.5
全国(公立)	8.9問 / 14問	63.8 %	10.0	3.4

	*D層 0～6問	*C層 7～9問	*B層 10～11問	*A層 12～14問
千葉県(公立)	24.7 %	26.2 %	23.7 %	25.4 %
全国(公立)	23.5 %	26.2 %	23.8 %	26.5 %

【中学校】

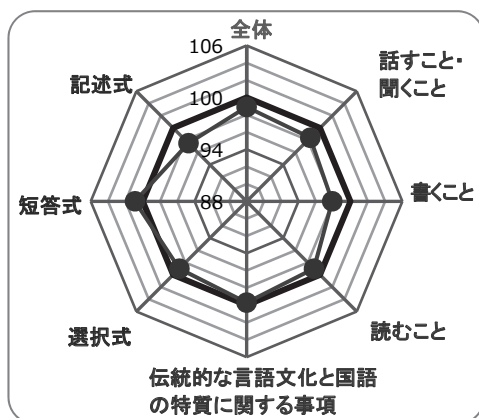
平均正答率は、全国に比べ 0.8 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が低く、昨年度よりそれぞれ 1.0～1.5 ポイント低下した。問題形式別では、「選択式」「記述式」が低い。

正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域等、問題形式の状況

平均正答率 (%)

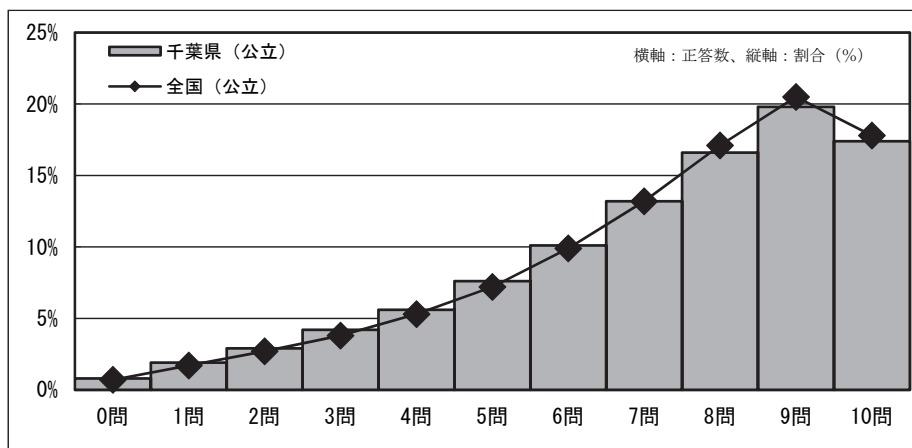
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	72	72.8



領域等	全体	指数
話すこと・聞くこと	98.9	98.4
書くこと	97.9	99.0
読むこと	99.7	99.0
問題形式	選択式	100.9
短答式	97.5	
記述式		

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
 ・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
 ・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	7.2 問 / 10 問	72 %	8.0	2.4
全国(公立)	7.3 問 / 10 問	72.8 %	8.0	2.4

	*D層 0～5 問	*C層 6～7 問	*B層 8 問	*A層 9～10 問
千葉県(公立)	22.9 %	23.3 %	16.6 %	37.2 %
全国(公立)	21.4 %	23.1 %	17.1 %	38.4 %

(2) 算数・数学

【小学校】

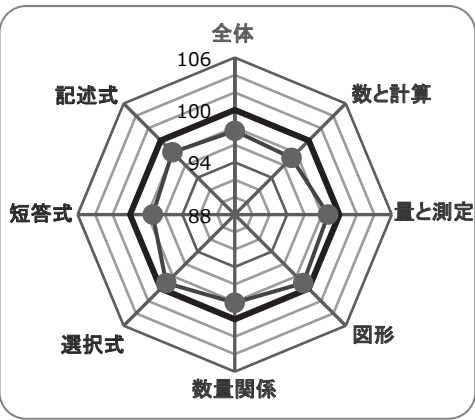
平均正答率は、全国に比べ 1.6 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、全ての領域で全国より低い。問題形式別では、「短答式」「記述式」が低い状況であるが、昨年度より「選択式」は 1.4 ポイント、「記述式」は 2.2 ポイント上昇した。

正答数の分布は、全国と比べ A 層・B 層の割合が低く、C 層・D 層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率 (%)

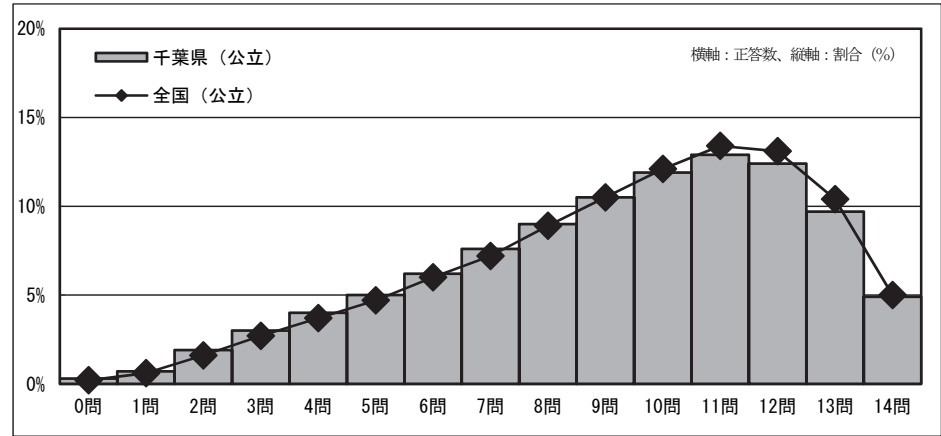
小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
算数	65	66.6



領 域	全体	97.6
	数と計算	97.2
	量と測定	98.7
	図形	99.1
問題形式	数量関係	98.1
	選択式	99.1
	短答式	97.4
	記述式	98.1

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について

- 各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで 4 つの層分けを行っている。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- 千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国の A～D 層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉県 (公立)	9.2 問 ／14 問	65 %	10.0	3.2
全 国 (公立)	9.3 問 ／14 問	66.6 %	10.0	3.1

	*D 層 0～6 問	*C 層 7～9 問	*B 層 10～11 問	*A 層 12～14 問
千葉県 (公立)	21.1 %	27.1 %	24.8 %	27.0 %
全 国 (公立)	19.5 %	26.5 %	25.5 %	28.5 %

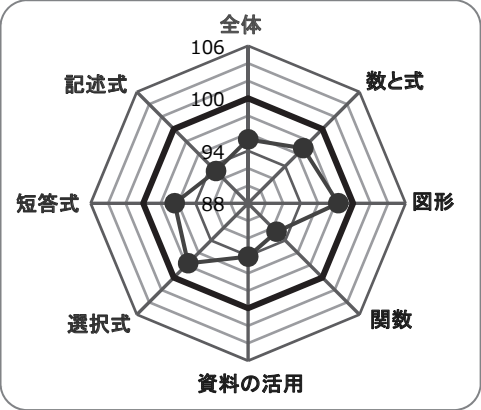
【中学校】

平均正答率は、全国に比べ、2.8ポイント低い。領域別に見ると、全国を100とした時の指数に比べ、全ての領域で全国より低く、「関数」「資料の活用」では、特に低い状況がみられる。問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国より低い。「記述式」は6.8ポイント低くなっている。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、C層・D層の割合が高くなっている。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率 (%)

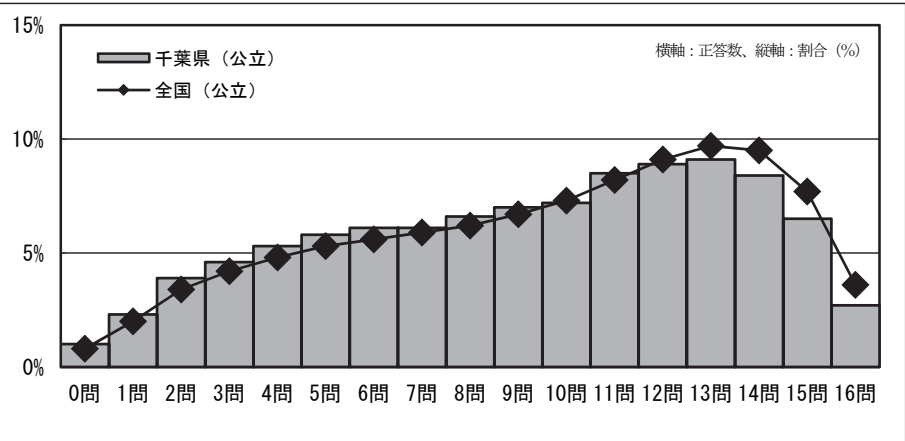
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
数学	57	59.8



領域	全体	95.3
領域	数と式	96.9
	図形	98.3
	関数	92.6
	資料の活用	94.1
問題形式	選択式	97.7
	短答式	96.4
	記述式	93.2

※全国を100とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国のA～D層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉県 (公立)	9.2 問 ／16 問	57 %	10.0	4.2
全 国 (公立)	9.6 問 ／16 問	59.8 %	10.0	4.2

	*D 層 0～5 問	*C 層 6～9 問	*B 層 10～12 問	*A 層 13～16 問
千葉県 (公立)	22.8 %	25.8 %	24.6 %	26.8 %
全 国 (公立)	20.6 %	24.3 %	24.6 %	30.6 %

(3) 英語

【中学校】

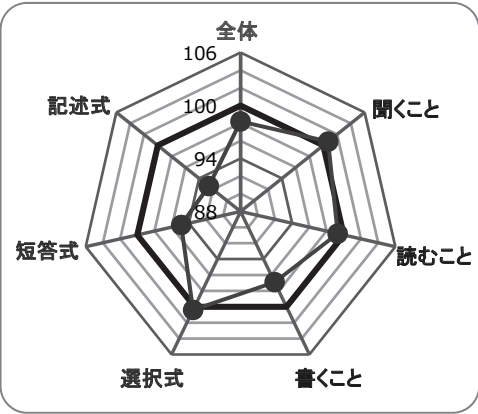
本県の平均正答率は、全国に比べ 1.0 ポイント低い。領域別に見ると、全国を 100 とした時の指数に比べ、「聞くこと」が 0.7 ポイント高く、「読むこと」は 0.7 ポイント、「書くこと」は 3.1 ポイント低い状況である。問題形式別では、全国に比べ、「選択式」が 0.4 ポイント高く、「短答式」は 5.1 ポイント、「記述式」は 7.4 ポイント低い状況である。

正答数の分布は、全国と比べ A 層の割合が低く、B～D 層の割合は全国とほぼ同じである。

① 学習指導要領の領域、問題形式の状況

平均正答率 (%)

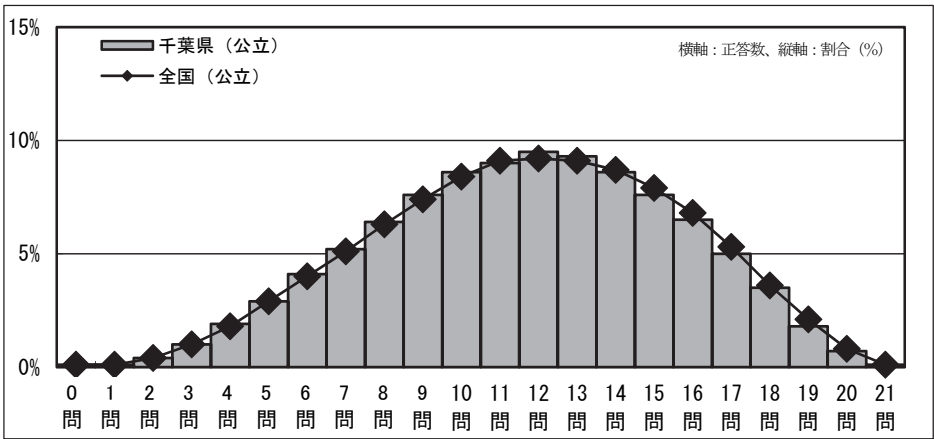
中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
英語	55	56.0



領域	全体	98.2
領域	聞くこと	100.7
	読むこと	99.3
	書くこと	96.9
問題形式	選択式	100.4
	短答式	94.9
	記述式	92.6

※全国を 100 とした時の指数で表している。

② 正答数の分布



※「A～D層」について
・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により 25%刻みで 4 つの層分けを行っている。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
・千葉県（指定都市を除く）の人数比率は、全国の A～D 層を基準に示している。

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D 層	*C 層	*B 層	*A 層
						0～8 問	9～11 問	12～14 問	15～21 問
千葉県 (公立)	11.6 問 ／21 問	55 %	12.0	3.9	千葉県 (公立)	22.1 %	25.2 %	27.4 %	25.3 %
全 国 (公立)	11.8 問 ／21 問	56.0 %	12.0	3.9	全 国 (公立)	21.6 %	24.8 %	27.0 %	26.6 %

5 質問紙調査の結果

※チャート図は、千葉県の結果について、全国を母集団として標準化したものである。
内側の破線が全国平均を表している。
※◇は成果を、◆は課題を示している。

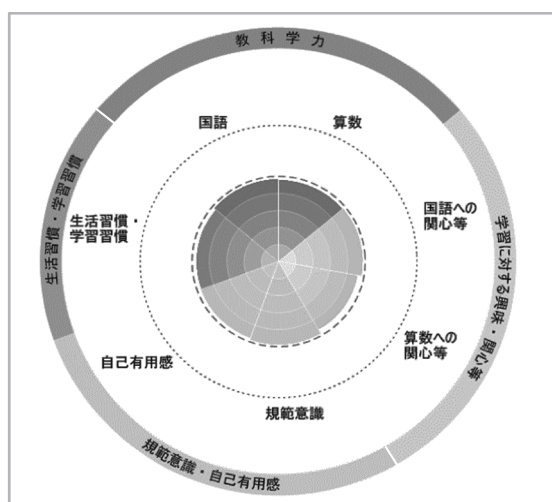
(1) 児童生徒質問紙調査

全体的に、児童生徒ともに、肯定的回答の割合は全国に比べてやや低い状況である。
領域別に見ると、生徒の「国語への関心等」、児童生徒の「算数・数学への関心等」は、全国に比べて低い状況である。「英語への関心等」は、全国に比べて高い状況である。

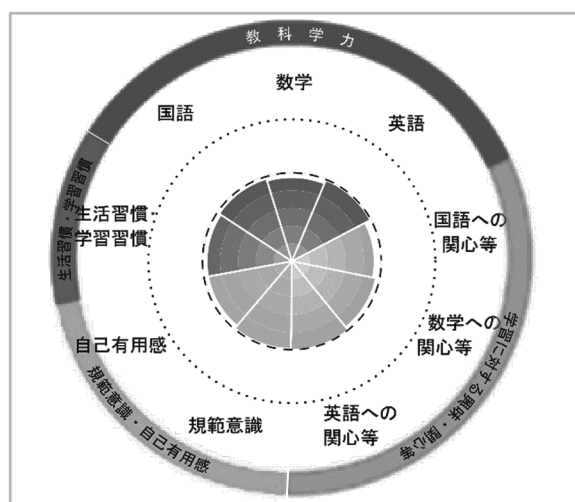
また、「規範意識」、「生活習慣・学習習慣」では、肯定的回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

〈児童生徒質問紙調査と教科の結果〉

【児童】



【生徒】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
学習に対する興味・関心等	国語への関心等	児 37～40 生 40～43	◇「英語への関心等」は、全国に比べて高い。
	算数・数学への関心等	児 46～49 生 49～52	◆「算数・数学への関心等」は、児童生徒ともに全国に比べて低い。
	英語への関心等	生 54～57	◆生徒の「国語への関心等」は、全国に比べて低い。
規範意識・自己有用感	規範意識	13、15、16	◇児童生徒ともに「規範意識」は、全質問項目において、肯定的回答の割合は90%を超えている。
	自己有用感	5、6、8	◆生徒の「自己有用感」は、全国に比べて低い。
生活習慣・学習習慣		1～3、17	◇「朝食を食べている」、「毎日同じ時刻に起きている」児童生徒の割合は、90%以上である。 ◆児童生徒ともに「生活習慣」・「学習習慣」は、全国に比べて低い状況である。

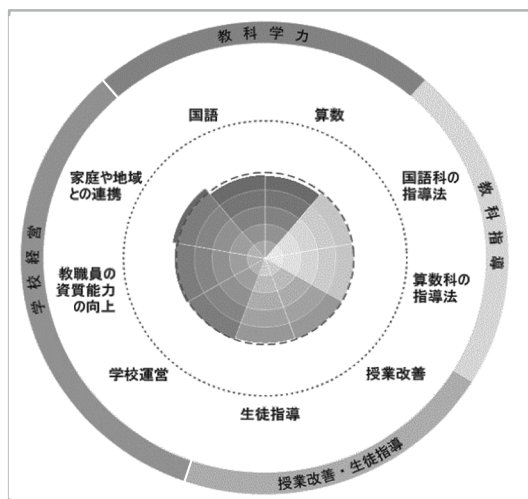
(2) 学校質問紙調査

全体的に、中学校の肯定的回答の割合は全国に比べて低い状況である。

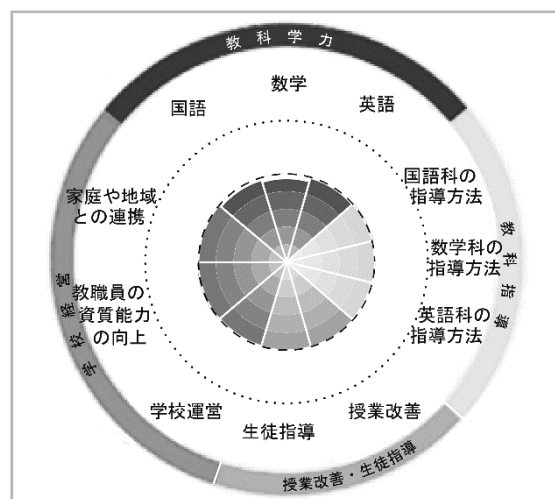
領域別に見ると、「国語科の指導方法」「算数・数学科の指導方法」は、小学校は全国に比べて低く、中学校は高い。「英語科の指導方法」は全国に比べて低い状況である。「教職員の資質能力の向上」は小中学校とも全国に比べて高く、「家庭や地域との連携」は、小学校が全国に比べて高く、取組に力を入れていることがうかがえる。

〈学校質問紙調査と教科の結果〉

【小学校】



【中学校】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
教科指導	国語科の指導方法	小 39～44 中 40～45	◇国語の授業において、「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」小中学校の割合は全国に比べて高い。
	算数・数学科の指導方法	小 45～48 中 46～49	◆算数・数学の授業において、「発展的な学習の指導を行った」小学校の割合は全国に比べて低い。
	英語科の指導方法	中 50～58	◆英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする」、「その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする」言語活動を行った中学校の割合は、全国に比べて低い。
授業改善・生徒指導	授業改善	小 32、37、38 中 33、37、38	◇「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていく」割合は、中学校は全国に比べて高い。
	生徒指導	小 9、11～14 中 9、11～14	◆小中学校とも「生徒指導」に関する項目は、全国に比べて低い。
学校経営	学校運営	小 15～21 中 15～21	◇小中学校とも「講師を招聘した校内研修を行っている」割合は、全国に比べて高い。
	教職員の資質能力の向上	小 22～31 中 23～32	◇「職場見学や職場体験活動を行っている」小学校の割合は、全国に比べて著しく高い。
	家庭や地域との連携	小 54～58 中 68～72	◆「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」割合は、小中学校とも全国に比べて低い。